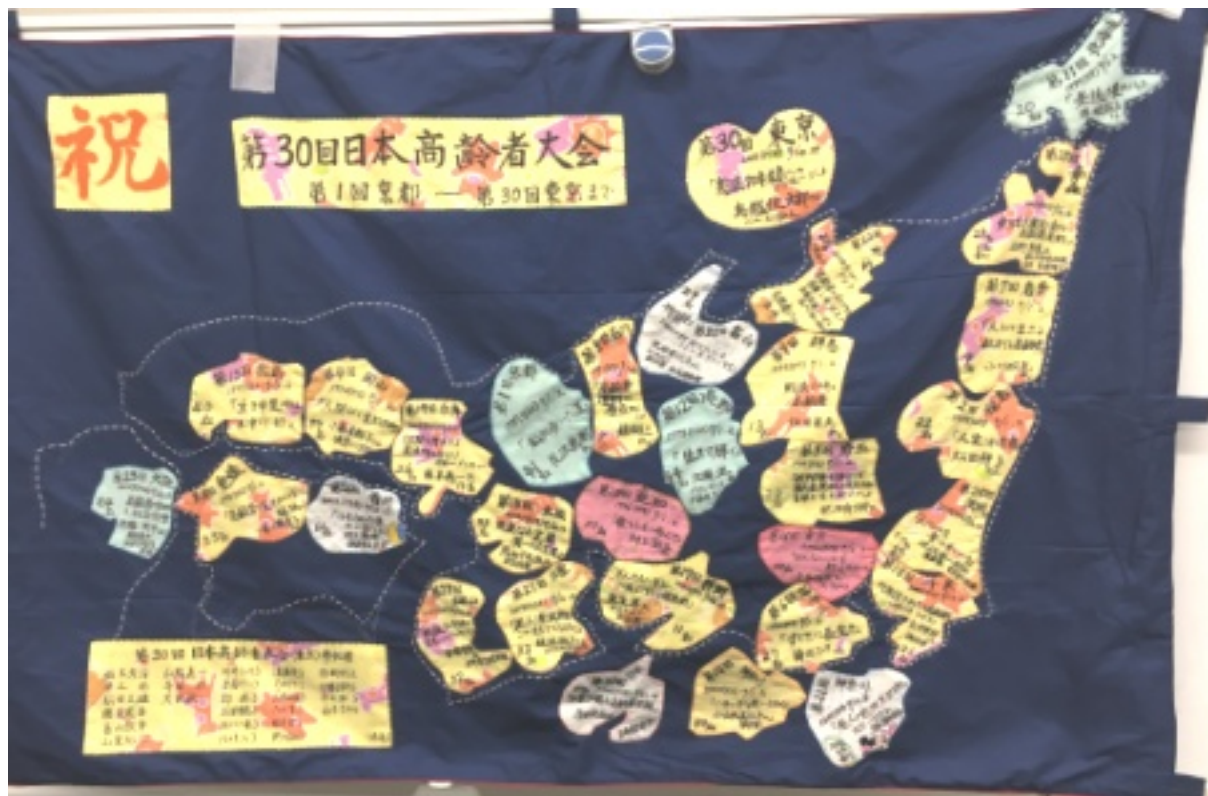


日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：毎月1日
2017年1月1日
No.317



徳島県高齢者運動連絡会製作タペストリー



迎春

困ったら集まろう！集まって新しい歴史を創ろう！

日本高齢期運動連絡会
第31回日本高齢者大会in沖縄中央実行委員会

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、市民と野党が共同して政治を動かすという、日本史上初めての新しい運動が起りました。

また、日本高齢者大会も30周年の節目の大会を東京で開催し、1万人を超える参加者がありました。この第30回日本高齢者大会in東京では、交通権や防災など高齢期運動の新しいテーマも含め過去最大の学習講座や分科会が

開催され、4,000人を超える初参加者がありました。また、東京では40の地域実行委員会も生まれ、新しい運動の礎を築くことができました。

一方で戦後日本国憲法を基に築いてきた平和が安保法制とそれに基づくスーゲンへの自衛隊派遣などによって壊され、高齢者の生活を支える年金や医療介護などの社会保障が次々改悪されています。そのことによって高齢者

の暮らしは、ますます厳しいものになっています。

とりわけ、「貧困」と「孤立」がますます広がっています。年金では医療や介護の費用が払えず、後期高齢者になってまた仕事を始める人が増えています。この状況を打開するためには、平和を守り社会保障制度の改悪に歯止めをかけることと、目の前の困難を解決することの2つが必要です。

2017年、日本高齢期運動連絡会と第31回日本高齢者大会中央実行委員会は、この課題に正面から取り組むことにしています。

12・17「第30回日本高齢者大会in東京 中央実行委員会総括と 第31回日本高齢者大会in沖縄 中央実行委員会発足 日本高齢者大会中央実行委員会

第30回日本高齢者大会中央実行委員会は、12月17日、東京都生協連新会館(中野区)会議室において、標記の会合を中央9団体 21都県49人(含む事務局4人)の参加をえて開催しました。当日は、大河原貞人第30回日本高齢者大会中央実行委員会事務局次長(神奈川高連事務局次長)が開会を宣言し、議長に田中英男第30回日本高齢者大会東京中央実行委員会事務局次長(茨城高連)を選出しました。議事に先立ち、富田浩康第30回日本高齢者大会東京中央実行委員長が「東京大会の成功を確信に運動を進めてきました。年金カット法の成立など安倍内閣の暴走が続いているが、まだ施行までに時間があり、さらに運動を強めていきたい。大会成功への実行委員の尽力に感謝します」と挨拶しました。石川徹東京実行委員長は「東京大会が掲げた目標をすべて達成できたことを確信しました。これからは、この到達点に立ち、東京の地域連絡会作り、診療現場や介護の現場で高齢者の暮らしと健康をすこしでも良くすることに引き続き奮闘していきましょう」と述べました。続いて、議事に移りました。「東京大会の総括」(中央実行委・東京実行委)の提案、全体討論、討論のまとめ、提案を拍手で採択しました。

東京実行委員会の菅谷正見事務局長、吉岡尚志企画委員長たちから、「東京実行委員会

まず、10月28日、29日に「第31回日本高齢者大会in沖縄」を沖縄県宜野湾市で開催します。1年間通じて安保や基地問題の本質を学び、沖縄での米軍基地撤去の運動に連帯するとともに、全国各地の米軍基地やオスプレイ配備問題にとりくみます。

また、各地で市町村レベルの高齢期運動地域連絡会づくりにとりくみ、議会を対象にした高齢者要求実現運動や高齢者の居場所づくりなどにとりくみます。

今年も、旧年に増して高齢期運動へのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

総括(10月26日第6回委員会確認)」について報告がありました。

要点：東京からの参加：5,756名で1万人目標達成に貢献したこと、学習講座・分科会などもかつてない講師陣で規模でも内容でも大きく成功したこと、都知事選に記念講演講師の鳥越俊太郎氏が立候補するというかつてない条件の中で準備活動を工夫し全体会の成功につなげたこと、大会は多くの実行委員会団体の奮闘で支えられたこと、財政的にも黒字で終了したこと、大会後も地域実行委員会を地域連絡会にとして存続させる動きが続いていること」など。

中央実行委員会の藤谷恵三事務局長が「中央実行委員会総括」について報告・提案しました。

要点：一つ目の「東京大会に期待された意義と任務を果たすことができたか」という点では、(1)戦争法廃止や参議院選挙、東京都知事選などで高齢者・国民の要求実現を目指す運動を推進しながら東京大会に参加したこと、(2)「高齢期運動の特徴とは何か」など根源的な問題についての論議と日常活動の進め方について論議が進んだこと、(3)高齢期運動の地域連絡会作りが進んだことなどで目標を達成できたと総括した。2つ目の1万人目標については、12月16日現在の集約で10,261名の参



第30回日本高齢者大会in東京

富田中央実行委員長

石川東京実行委員長

加を確認。特徴は、東京・関東近県の参加者が多かったこと。3つ目の財政目標では、目標の600万円の剰余は欠けたが269万の剰余が出たこと、他に熊本震災支援募金：630,588円、全国オルグ費用募金：14,521,374円）が集まったことを説明しました。

次に30回大会の特徴：(1)過去最大の参加者の多数が初参加者であったこと、(2)かつてない多彩なテーマの講座・分科会が持たれ、多くの講師陣が参加したことで、高齢期運動の認知が広がり、高齢期運動が扱うテーマも格段に広がったことの2点を挙げた。最後に、第31回日本高齢者大会in沖縄に引き継ぐべき課題として、(1)高齢期運動の共同を広げること、(2)地域連絡会づくりを本格的に進めること、(3)平和と暮らしを守る運動をさらに強めること、(4)全県からの参加をめざすこと、(5)大会の企画運営に工夫し、参加しやすくすること」を提起した。

全体討論は、福島・香川・新潟・愛媛・徳島・京都・婦人民主クラブなど7名が発言。

◎福島：基調報告にも今日の総括でも情勢問題に「東京電力福島第一原発事故」について触れられていない。来年度は分科会として復活させてほしい。

◎香川：学習講座で定数を超えて入れないところがある。工夫してほしい。

◎新潟：30年連続参加した人がいる。表彰か、せめて紹介して欲しかった。

◎愛媛：30年間連続参加しているが、歴史に残る大会だった。沖縄大会も参加する。

◎徳島：30年間の開催地を地図に入れたタペストリーを作って大会に参加した。



伊藤氏(福島)



北村氏(香川)



鈴木氏(愛媛)



井上氏(徳島)



北村氏(京都)



石黒氏(婦人民主クラブ)

◎京都：若者の参加があり、未来に通じる大会だった。京都でも若者参加をすすめている。京都では、共同を広げた実行委員会で行っている。沖縄でも追求してほしい。

◎婦人民主クラブ：50人の目標で57人参加。沖縄大会は、高齢者のペースでできる大会として参加者を募っているのでよろしく。

◎討論のまとめ・藤谷事務局長：(1)福島からの東京電力福島第一原発事故についての記述は、情勢分析上必要であったことを認め、来年の分科会設定については、沖縄大会実行委員会に引き継ぐ。(2)30年連続参加については、大会後実行委員長名で二人を表彰したことを報告し、来年も引き続き参加されることを期待している。(3)30回大会が歴史的な大会として成功したことを確認し、沖縄大会で運動を

さらに発展させよう。



第31回日本高齢者大会 in 沖縄
藤原 中央実行委員長

第31回日本高齢者大会 in 沖縄

第1回中央実行委員会 報告

2017年10月28～沖縄県で開催を予定している「第31回日本高齢者大会in沖縄」は、中央実行委員会と現地の沖縄県実行委員会企画や運営を行います。2016年12月17日、「第31回日本高齢者大会第1回中央実行委員会」を開催し、中央9団体と22都県高連からの49人(含む事務局4人)が参加しました。議事に先立ち、「日本高齢者大会プロモーションDVD」と「第30回日本高齢者大会in東京ダイジェストDVD」を上映しました。会議では、「第31回日本高齢者大会in沖縄」に関する「基調方針・中央実行委員会体制・予算案」の提案、全体討論、討論のまとめ、議案の採択を行いました。新たに第31回大会中央実行委員長に選出された藤原 高明医療福祉生協連代表理事会長理事が就任挨拶をしました。

日本高連の中山晴夫事務局次長が開会を宣し、全国生活と健康を守る会連合会の木島章氏を議長に選出し議事に入りました。日本高連の藤谷恵三事務局長が、「第31回日本高齢者大会in沖縄の実施に関する基調提案(情勢・大会の意義・目標・実行委員会体制・予算案)」しました。

提案の要点

(1)高齢者を取り巻く情勢の特徴について、(2)高齢期運動の課題、(3)第31回日本高齢者大会in沖縄に向けた運動の強化方向、(4)具体的な活動計画、(5)大会規模(沖縄1,500人・全国1,500人：計3,000人)、(6)日程：10月28日～30日(沖縄県宜野湾市を中心)、(7)中央実行

委体制：藤原高明委員長(医療福祉生協連代表理事会長理事・事務局長：藤谷恵三日本高連事務局長、(8)予算案：約1,000万円。

藤原高明委員長あいさつの要点

沖縄で開催される意義に触れ、沖縄での戦いを励ますとともに全国の運動が多く学びを得て飛躍する可能性があること、深刻化する平和と社会保障の危機を突破する運動を大きく広げて大会に参加しましょう。特に基地問題・オスプレイ事故・高江のヘリパッド建設などで沖縄と共同すること、老いても安心して暮らせるまちづくりを進めるため実行委員長として奮闘する決意です。

特別報告：日本高齢期運動サポートセンターの鐘ヶ江正志専務理事から「国連の第7回高齢化に関するワーキンググループ参加と高齢者問題分野でのNGO活動報告」がありました。

●全体討論は、宮崎・兵庫・福島・香川・新潟・愛媛・長野・三重・東京・静岡・京都・新婦人・医療福祉生協などから17名が発言。

◎発言要旨：(1)「地域連絡会づくり・県大会」の報告(宮崎・愛媛・長野・三重・東京など)、(2)遠距離なので早めに日程・コース設定や工夫を(兵庫・新潟・香川・京都など)、(3)原発事故問題の分科会を(福島)、(4)社会保障改悪反対・地域包括ケア・介護の総合事業で行政との連携(新婦人・医療福祉生協連・新潟)、(5)東京大会の成功を沖縄に(東京・長野・静岡)。発言の最後に沖縄現地実行委員会事務局の知念さん(沖縄医療生協)から「沖縄への期待をひしひしと感じた。皆さんの期待に応えられるように奮闘したい。」と決意表明がありました。

◎討論のまとめ・藤谷事務局長：(1)30回大会の成功を確認し、沖縄大会で運動をさらに発展させよう。(2)沖縄大会では、「国内外の共同の推進」を掲げる。(3)那覇空港がバブ空港であることからアジアの高齢者問題を扱う団体の代表の招待の検討。(4)介護の総合事業対応や貧困対策など、行政とともに地域を守る活動を強める必要があること、指摘するだけで行政が改善に動く事例もたくさんあり、議会への監視も大事。(5)運動の課題としては改めて地域連絡会づくりが高齢期運動の成否を握っている。(6)各地方組織も年間を通じて

高齢者大会開催支援と基地反対運動連帯で沖縄に出かけてほしい。

このあと、参加者に「討論のまとめ・予算案」を全員異議なく拍手で確認し採択した。

最後に日本高連の田中諭事務局次長（全日

本年年金者組合中央執行副委員長）の「重大な情勢の中、各地で奮闘して沖縄大会成功に向けて活動を強めよう」の閉会挨拶で終了しました。

平成29年度高齢者予算要求 厚労省前 年末座り込み行動の報告

年金・医療・福祉の充実で安心して暮らせる老後を求め、12/14より3日間厚労省前に昼夜座り込み、午前中雨で会場設営も足場が悪く、とまどいもありましたが、葛飾社保協、東京土建葛飾支部のご協力、多くの方の手弁当でのご支援で予定通り実施する事ができました。まず、来年度の予算編成にからめて17項目の要求を厚労省に提出、このなかには生活保護制度の老齢加算復活、医療費の自己負担の減額、介護保険制度の改悪など社会保障制度全般の大改悪をストップするよう各担当者に提出しました。回答については2月1日としました。この行動は昨年より日本高齢期運動連絡会（日高連）と東京都老後保障推進協会（都老協）が共催して実施することになったものです。要請後ただちに日高連・藤谷事

務局長より国会最終盤のなかでの座り込みについて行きかう人達への支援・協力をビラ配布など行いながら訴えました。3日間通して記帳された方77人。名簿にはサインしないが立ち寄って激励された方もおりました。激励に駆けつけてくれた共産党国会議員11人でした。また、団体・労働組合代表・文化人・青年、通りすがりの人からの激励、目頭が熱くなる思いでした。16日11時より集結式「宣言」を採択。主催者を代表して都老協・城田会長が「高齢者が座り込みなどしなくてもよい社会を目指して頑張ろう」と挨拶。新日本婦人の会中央本部・山元さんが『座り込み宣言』「高齢者は諦めない、安心して暮らせる平和な日本をつくるまで」と読み上げ、拍手で確認し無事終了しました。（都老協 坂本光治）

憲法改悪を許さず、高齢者の尊厳とくらしを守り、社会保障の充実を 第12回「輝け高齢期かながわのつどいin湘南」に520人 神奈川県高齢期運動連絡会

神奈川県高齢期運動連絡会は、11月15日、藤沢市民会館で第12回「輝け高齢期かながわのつどいin湘南」を開き、県内各地から会場満杯の520人が参加し大成功しました。

松平晃さんのトランペット演奏で始まり、司会の医療生協かながわの高橋さんと新婦人藤沢支部の安田さんが開会宣言をしました。

副実行委員長の大山正夫さんが、「後期高齢者医療保険の『特例軽減措置』が廃止されると、県内の対象者の5割強が現在の2倍から10倍に保険料が引きあがる」「『特例軽減措置』を廃止させないように」と開会あいさつで訴えました。

来賓は、日本共産党・加藤なを子県議会議

員、社民党神奈川県連合・木村栄子副代表があいさつ。自由党神奈川県総支部連合会・樋高剛代表、日本共産党・畑野君枝衆院議員のメッセージが紹介されました。



記念講演は、汐田総合病院・宮澤由美副院長が「介護保険をめぐる情勢と認知症に優しい

まちづくり」について、分かりやすく説明しました。

神奈川県高齢期運動連絡会・大河原貞人事務局長が基調報告をおこない、今後1年間の取り組み重点課題について提案をしました。

午後の部は、実行委員長の藤沢診療所・野本哲男先生が「医療・介護の改悪を許さない運動が、今後ますます求められている」と話し、また、100歳の誕生日を迎えた患者さんの事例を紹介し、お腹をポンとたたき「まだまだこれから」と、ユーモアを交えたあいさつに会場を沸かせました。

医療生協かながわの角坂さんは「ひとりぼっち」をなくそうと運営している「ふらっとステーション虹」の取り組みについて。年金・藤沢支部の矢野さんは「暮らしの実態と年金裁判」について。最高裁で審議されている「東京高裁への移送の取り消し」と臨時国会に上程された「年金カット法案」撤回を求める署名を呼びかけました。茅ヶ崎市社保協の斎藤さんは、介護保険問題で行政などとの懇談内容と「特例軽減措置継続について」12月定例議会に陳情予定であると報告。神商連共済会・漆原さんは、商工業者の実態について「体調が悪くて医療にかかった時は手遅れ、すぐに亡くなってしまう」と告発。建設組合を代表して神奈川土建シニアの会の上遠野さ

んは「高齢者のお客さんは、話し相手を求めており、自分たちが役割を果たしている」「今回参加して『勝つことはあきらめないこと』の提起が胸に落ちた」と発言。新婦人藤沢支部の望月さんは、「横浜市や川崎市は、子どもの医療費に所得制限や一部負担を導入した」「子どもの貧困は深刻で、一部負担などの導入は許さない運動を強めていきたい」と発言。

文化行事は、藤沢のフラダンスグループ「リリー・フラ・ハラウ」で幕開けし、華やかで優雅な踊りは参加者を魅了しました。年金・茅ヶ崎支部の各サークルを中心に「腹話術」「南京玉すだれ」「太極拳」など日頃の成果を披露しました。

松平晃さんが再登場し、懐かしい「銀座カンカン娘」などを演奏。最後は、年金者組合のさわやか合唱団が50人で、「広い川の岸边」などを歌い、「沖繩を返せ」をみんなで腕を組んで合唱しました。「みんなでコール」を、神奈川民医連の古謝さんのリードで「安倍政権は退陣、退陣」などアピール。「つどいin湘南」のアピールを年金・寒川支部の石黒さんが提案し、最後に年金・藤沢支部の石井さんが、閉会あいさつして終了しました。

「輝け高齢期」第259号より

平和が一番！世代を超えた連帯で心やすらぐ高齢期を！ 9・16「第29回福島県高齢者大会」に500人近い参加

福島県高齢者運動連絡会

福島県高齢者運動連絡会は、9月16日郡山市中央公民館を会場に「第29回福島県高齢者大会」を開き、午前の分科会と午後の全体会に郡山市はもとより、県内各地から500人近い方々がつどい、心を合わせました。

品川萬里郡山市長の来賓あいさつで幕あけた午後の全体会では、郡山医療生協のうたごえサークル「ひまわり」の皆さんの歌声、郡山市逢瀬町有志の皆さんによる「ひょっこ踊り」が場内を沸かせ、西澤岩蔵大会実行委員長が歓迎のあいさつ。浜矩子同志社大学院教授の歯に衣着せぬ痛快な記念講演に、郡山

市中央公民館多目的ホールの460席を埋め尽くした参加者が熱心に聞き入りました。

浜先生は、「国民生活と経済をダメにしたアベノミクス」との演題について、「良い演題を頂きましたが、『アホノミクス』として頂ければもっと良かった」と切り出し、国民の声など聴く耳を持たない安倍政権の暴走の本質について、「富国強兵による軍事大国」「戦前のような大日本帝国への回帰」だとその危険性を指摘。「アホノミクス」をもって富国を実現し、憲法改正によって強兵の体制を整えようとする時代の逆行を阻止するために、安倍政権には

ない、人の話を聴く「耳」、貧困や格差拡大で苦悩する人々心寄せ涙する「目」、困っている人々に差しのべる優しい「手」をお互い持ちましょうと熱く語りかけ、共感の拍手に包まれました。

大会では、戦争法廃止、「原発ゼロ」へ再稼働や輸出の中止、最低保障年金制度確立と年金積立金の投機的株式運用の中止等々を求めた「高齢者の尊厳とくらしを守り、社会保障の充実と求める」大会宣言と、政府・厚労省が「要支援1・2」に続いて「要介護1・2」まで保険給付から外すなどの更なる改悪を目論んでいることについて、「すべての高齢者から強制的に保険料を徴収しながら次々と保険給付から外すやり方は『国家的詐欺』とも言える暴挙であり、とうてい認められない。すみやか

に撤回し、高齢者の誰もが納得できる介護保険として充実さすよう強く求める」との特別決議を満場の拍手で採択しました。

第30回の節目となる来年の大会を開催するいわき代表の決意表明を受け、元気にいわきで再会することを誓い合って散会しました。

第29回福島県高齢者大会の開催にあたって、郡山市、田村市、三春町、小野町の4自治体の後援、大会しおりへの129の事業所・団体からの協賛広告、また郡山コンベンションビューローによる歓迎看板の掲示と300枚の手提げ袋の提供をお寄せいただきました。

ここに付記し、感謝申し上げます。

福島県高齢者運動連絡会事務局長 橋本憲幸

「第29回福島県高齢者大会報告集」から

国連で高齢者人権条約をつくるためのWGに参加

日本高齢期運動サポートセンター

第7回高齢化に関するワーキンググループ(WG)が2016年12月12-15日まで国連本部で開催され、国連に登録している日本高齢期運動サポートセンター(S・C)から高田清恵(琉球大学教授)・鈴木静(愛媛大准教授)・鐘ヶ江正志(S・C)の3名が参加しました。

WGは、国連の会議で各国政府代表の発言とNGOメンバーの発言が認められる開かれた運営です。また国連の会議の他早朝と午後にはNGOの独自会議も行われるという大変濃密な内容でした。

政府代表からは、高齢化に対する各国の施策などNGOからは人権・年齢差別の現状と国連で条約制定の必要性が強調されました。

国連会議の場で初日に日本を代表して高田清恵さんが、英語で人権侵害の現状と国際的な高齢者人権条約制定の重要性を発言(別掲)しました。各国の参加者から「いい内容だった」の声が寄せられました。

今回のWGへの参加は、①日本から世界に向かって発言できたこと②各国のNGOと交流ができ連帯の輪を広げることができた大きな成果がありました。

来年もさらに多くの人が参加することと国

内での運動を広げることが課題です。(鐘ヶ江)

日本からのステートメント

「国際的な高齢者の人権条約を制定することが急を要する課題」

高田 清恵

発言の機会を与えて頂き、どうもありがとうございます。私は日本のNGOである日本高齢期運動サポートセンターのメンバーです。琉球大学の教授であり、社会保障法を専門としています。

高齢者を対象とする権利条約の制定に向けて、早急に歩みを進めて下さるようお願いしたく、スピーチをさせていただきます。

日本では、高齢者の人権は、様々な場面で深刻に侵害されています。

第一に、経済的側面については、貧困な状態にある高齢者の人数は増加しています。2013年以降、高齢者を対象とした公的年金の給付が段階的に2.5%引き下げられています。また、最低限度の生活を保障する生活保護の基準も、平均で6.5%引き下げられました。その結果、高齢者の最低限度の生活をおくる権利は深刻



高田清恵氏

に脅かされています。昨年も私たちが述べたとおり、高齢者が餓死する事件も生じています。それらは多くの場合、孤立し、孤独な状態で亡くなっています。日本語で「孤独死」と呼ばれるものです。

第二に、必要とする適切な介護を受けられない高齢者も、相当な人数で存在しています。2015年に公的介護保険が改正されましたが、それにより、以前は受けることができた介護や給付を、今後、必要性があるにもかかわらず、受けられなくなる高齢者が多数生じています。例えば、高齢者の介護施設（特別養護老人ホーム等）に入居するニーズを有する高齢者のうち、約40%が、原則として今後は利用することができなくなります。

第三に、公的なケア施策が不十分なために、

家族が、高齢者の介護をすることを余儀なくされています。多くの場合、介護をする家族もまた高齢者です。家族の権利も、様々な形で侵害、剥奪されている状況にあります。

これらの人権侵害の背景には、現在の日本の社会保障や社会福祉政策の傾向における問題が存在すると言わざるを得ません。その特徴は、人びとの人権よりも、財政優先、財政削減が優先され、強調されている点です。

皆さんもご存じかと思いますが、日本では、今年2016年7月、重度の障害のある人々の施設で、19人の入所者が元施設職員に殺害されるという悲惨な事件が起きました。この事件は、直接に高齢者に関する事件ではありませんでした。しかし日本政府は、こういった現実を直視しなければなりません。

このような日本の状況からすると、私は、国際的な高齢者の人権条約を制定することが、以前よりもいっそう重要になっていると考えます。これは急を要する課題です。どうか、高齢者の権利条約の制定に向けた措置を早期に講じて頂けるよう、そして日本および世界中の高齢者の人権保障に大きな前進がもたらされるよう、参加するすべての皆さんに要請いたします。

お聞き頂き、ありがとうございました。

「第30回日本高齢者大会in東京」の報告集とDVDが完成しました。大会記録としてだけでなく、高齢期運動の学習資料、今後の開催にとりましても参考になる1冊です。ぜひお申込みください。

報告集 1,000円
DVD 500円

お申し込みは日本高連まで TEL/FAX 03-3384-6654

